



食品安全の「革命」：GFSI ディレクター、エリカ・シェワード、2020 年版と Race to the Top について

2020 年 4 月 30 日 木曜日



2019 年 10 月に GFSI の指揮をとって以来、ディレクターのエリカ・シェワードは、近年で最も野心的ないくつかの取り組みの立ち上げに貢献してきました。公的・民間部門および学界で 20 以上の食品安全の経験を持つエリカは、食品安全の進歩と監視を促進するための積極的な取り組みである GFSI の Race to the Top を主導しています。彼女はまた、2017 年以来初の全面改訂となる GFSI ベンチマーク要件の 2020 年版の発行も監督しました。

シアトルで開催された GFSI カンファレンスのオープニングプレナリーで Race to the Top と 2020 年版を発表した直後、エリカは [IHS Markit](#) のジャーナリストであるサラ・ルイス氏と今後の計画について話し合いました。GFSI エキスパート・シリーズの今日のエピソードで対談をご覧ください。以下のトランスクリプトをお読みください。

サラ・ルイス: 2019 年 10 月に GFSI のディレクターに就任されたということは、まだ新しい仕事に就かれたばかりですね。組織の計画を教えてください。

エリカ・シェワード: 大きな計画です。近代化、革新、前進するための大きな計画です。私たちは、Race to the Top として計画したイノベーションを作り上げています。過去 20 年間で多くのことを達成してきましたが、私たちは前進し続ける必要があること、世界で直面している食品安全上の課題に正面から向き合い続ける必要があることを認識しています。

サラ: どのようなことを変えたいですか？

エリカ: 基本的には、組織の細かい部分と連携する必要があります。私たちは調和とベンチマークの組織です。基準を設定しました。商業的な利益について心配する必要がないため、私たちは非常に恵まれた立場にあります。安全な食品を実現するために、できるだけ高い基準に設定しています。その上で、既存のベンチマーキングの取り決めではカバーされていない問題が出てきた場合には、基準を上げ続けます。それから、ステークホルダー・コミュニティと協力して、認証と審査の実施という点で、現場で私たちのために成果を上げてくれるようにしなければなりません。

サラ: GFSI は、ベンチマーク要件の 2020 年版を発表しました。あなたが先ほど革命と呼んだ大規模な見直しです。なぜこのような大規模な改正が必要だったのでしょうか？

エリカ: 世界は急速に変化していますよね？今、目の前にある問題だけでなく、これから発生する問題にも対応していかなければなりません。私たちは、食品安全性リスク、危険性、新興リスクを評価するために必要なインプットは何か、また、それらが既存のものよりも高いベンチマーク要件にどのように反映されるのかについて、非常によく考えています。このプロセスは信じられないほど徹底しており、非常に堅牢です。複数のステークホルダーが集まってこれらの要件を作成する必要があり、それは明らかに、私たちのブランドの下で運営されている CPO および CB に連鎖的効果をもたらします。

サラ: ベンチマーク要件の旧バージョンと 2020 年版の違いは何ですか？

エリカ: 前バージョンと 2020 年版 (7.2 と現在の 2020 年版) の直接の比較は、要件としての食品安全文化のようなものであり、確実に食品偽装です。食品偽装の観点から考えると、大きな進歩があり、この 2 つが際立った特徴だと思います。

サラ: 移行期間はありますか？

エリカ: ええ、もちろん。移行期間は常にあります。ボタンを押すだけで、ある要件から別の要件に移行するというわけではありませんから。2021 年への移行期間があります。新しいバージョンから流れ出る監査は 2021 年まで明示されません。これは、CPO が基準を提出し、その基準が一致しているか、私たちの認識要件を満たしているかどうかを確認する必要があります。それ自体がプロセスです。

サラ: 今後のアップデートではどのような変更があると思いますか？それはいつになるのでしょうか？

エリカ: それは本当に良い質問で、多くの人を知りたがっています。継続的に、永続的に、ベンチマーク要件をアップグレードするという考えはありません。必要だという根拠がない限り、私たちは基準を引き上げようとはしません。これは、食品の安全性には根本的に何かを含める必要があるが、現時点では存在しないと言う科学的証拠になるでしょう。これは一種の継続的なギャップ分析であり、そこにあるかどうかわからないものを見て、私たちが見逃したと思うことを人々が言うのを待っています。何もなければ、別のバージョンのために別のバージョンを作成するわけではありません。それはばかげているでしょう。私たちは科学的なインプットに基づいて物事を考えています。特に気候変動とそれに関連する食品安全のリスクについて。(私たちは)それが何を意味するのか、そして(もし)人々がそれに適応しなければならなかった場合に考慮しなければならない追加の監視レベルについて考えています。

サラ: GFSI 認証の取得に満足していますか？企業がサインアップに消極的な国や地域はありますか？またより多くの企業が参加するためには何ができるでしょうか？

エリカ: 素晴らしい質問ですね。多くの人々が数字ゲームだと思っていますが、これは数字ゲームではありません。証明書は少なくした方がいいですが、誰もが信頼できるものであり、優れた監査の裏付けがあると確信しているものでした。しかし、明らかに、私たちの野望は、認定されたサイトのプールを増やすことです。GFSI 認定プログラムと認定に対する企業の認識とそれがもたらすメリットについては、まだやるべきことがあります、それはメリットを語ることだと思います。しかし、私たちは、日常的に企業にメリットを売り込むよりも、企業と密接に(そして)直接関わっているステークホルダーに大きく依存しています。言うまでもなく、理事会メンバーの企業は要件の一部として、GFSI 認証を必要としているため、理事会メンバー企業にサービスを提供している場合は、すでに認証の需要があります。したがって、いずれかの取締役会メンバーのサービスを提供している場合、証明書の要求はすでにそこにあります。理事会メンバー企業の多くが世界最大の食品・飲料ブランドであることを考えると、トップダウンのアプローチは非常に役立っています。

サラ: EU の新しい公的管理規則が 12 月 14 日に施行され、食品の場合、リスクが少ないほど検査が少なくて済むというリスクベースの検査アプローチが導入されました。GFSI は、コンプライアンスの支援と企業のリスクプロファイルの低減において、果たすべき役割があると思いますか？

エリカ: ええ、もちろん。私たちの戦略的優先事項の一つに官民パートナーシップに関するものがありますが、私たちがこの取り組みを通じて達成しようとしている具体的な成果は、規制当局、国・地域の規制当局が GFSI 認証をコンプライアンスの指標として受け取り、リソースをどこに配分するか、何を規制するか(そして)どのように規制するかという点でリスクに応じた意思決定を行うためのツールとして GFSI 認証を使用することです。

サラ: 規制当局からこの目標を共有するというメッセージを受け取っていますか？

エリカ: 結局のところ、彼らの多くはリソースの制約に悩まされています。彼らはリスクに応じた方法で規制しなければならないことを知っており、異なる介入の選択を行い、どこでも同じことを続けられない方法を模索する必要があります。場合によっては、GFSI 認証を承認し、それを介して承認を取得する規制当局がすでに存在するため、その結果として検査の量が減ったり、検査の方法が異なったりします。規制当局にとっての課題は、ルールが原則に基づいたものではなく、非常に規定的なものである場合、高レベルの要求事項と規定的なルールが実際にどこで組み合わせられるかを理解するのが難しいということです。私たちは昨日、お互いに協力しあえると規制当局に理解していただくために効果的に取り組めたと思います。私の経歴は規制にあるため、GFSI 認証は規制の代わりにはならないということを常に強く主張してきました。それは私たちが主張することではありません。規制当局には、非常に強固な役割があります。しかし、リスクベースの意思決定における認証の価値を検討していただきたいと思います。

サラ: どの国がすでにそれを採用して受け入れていますか？

エリカ: 程度の差こそあれ、カナダ、そしてオーストラリアとニュージーランドです。発展途上国の中には、自国の規制制度がやや未発達であることを根拠に価値を承認している国も多く、コンプライアンスだけでなく、食品の安全性を示す指標として認証を持つことの価値を承認しています。これは彼らの助けになっています。大きな市場ではまだ課題を抱えていますが、そのような状況下でも話し合いを進めていきたいと考えています。

これは私たちの仕事の興味深い特徴です。特に私にとっては、私の専門的な経歴であるため、とても興味深いものです。私が過去 7、8 年間やってきたことは、規制当局により良い規制の原則を理解してもらい、古いやり方に縛られないようにするためのグローバルなイニシアチブを主導することです。検査、検査、検査、ほかに使えるツールがあります。

サラ: ありがとうございました。

エリカ: どういたしまして。ありがとうございました。

##